

美しい自然と名水のふるさと… ^{はだの} 秦野

その秦野が生んだ歌人 前田夕暮 の功績をたたえ

「夕暮祭短歌大会」を開催します



前田夕暮 (54 歳) 昭和 11 年

自筆短冊「出水川あからにこりてながれたり
つちよりにしのわきたちにけり 夕暮」(秦野市立図書館蔵)



第 33 回

夕暮祭短歌大会

■ 表彰式及び講演会 ■

日時：令和 2 年 7 月 25 日 (土)

午後 1 時 30 分～

場所：クアーズテック秦野カルチャーホール
(秦野市文化会館) 1 階 展示室

〔第 1 部〕 表彰式 選者による講評・表彰

〔第 2 部〕 講演会

「前田夕暮と万葉集一歌集『生くる日に』をめぐって」

講師 寺尾 登志子 氏

(夕暮祭選者・跡見学園女子大学講師)

定員 50 人 (申込み先着順)

申込み・問合せ

秦野市立図書館

電話 0463(81)7012

主催 / 秦野市・秦野市教育委員会

協力/ 秦野短歌会

後援/ 現代歌人協会 日本歌人クラブ 神奈川県歌人会 神奈川新聞社 t v k

第 33 回夕暮祭短歌大会 講演会

「前田夕暮と万葉集一歌集『生くる日に』をめぐって」

大正3年（1914年）9月。32歳を迎えた前田夕暮は、第三歌集『生くる日に』を白日社から刊行しました。同じ月、私生活では夕暮に長男が誕生しています。

今回の講演は、夕暮が人生の充実期ともいえる時期に刊行したこの歌集と万葉集との関わりに焦点をあて、夕暮祭短歌大会選者・寺尾登志子先生にお話しをいただきます。



写真 大正3年（夕暮32歳）
『生くる日に』の頃。妻、長男と。

講師 寺尾 登志子 氏

歌人、「りとむ」同人、跡見学園女子大学講師、NHK学園短歌添削講師、
ぶんきょう歌壇（文京区）撰者、現代歌人協会会員
歌集『晩夏光』『黄道光』『奥津磐座』
著書『われは燃えむよ—葛原妙子論』（第12回ながらみ書房出版賞）

問い合わせ先

〒257-0015

神奈川県秦野市平沢94番地の1

電話 0463(81)7012

秦野市立図書館